

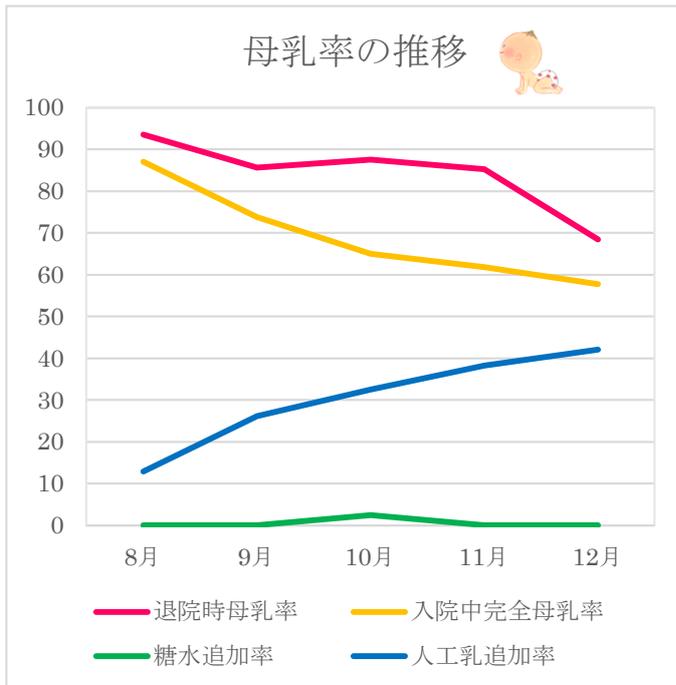
あいあい通信 Vo.4

桜満開号

大阪市立十三市民病院

4階母乳育児推進チーム

大阪市立十三市民病院は、病院方針の一つとして**母乳育児**を推奨しています。



- **入院中完全母乳率**: 入院中に1回も人工乳を追加しなかった割合
- **糖水追加率**: 入院中1回以上糖水を追加した割合
- **人工乳追加率**: 入院中1回以上人工乳を追加した割合
- **退院時母乳率**: 母乳栄養のみで退院した割合

先生の紹介

十三市民病院では主に産科と小児科の先生が連携して妊娠中から産後までサポートしてくれます！
そんな頼もしい先生方を紹介させていただきます。次は本久先生と斎藤先生です♪

【産婦人科】 本久医師

【小児科】 斎藤医師

妊婦健診で何でも相談してもらい、大切な期間を過ごしていきましょう。お産後入院中、赤ちゃんお預かりの時に泣いていたら抱っこさせてくださいね♡



小児科の斎藤です！
新生児専門医と4人の子育て経験を活かして頑張ります(#^_^#)



おっぱいってすごい！ ～分娩期・産褥期①編～

おっぱいって出産したらすぐに出てくるの？
何をしたらおっぱいが出やすくなるの？
分娩直後からできるおっぱいケアってどんなの？
そんなおっぱいの疑問に答えていきます！



○赤ちゃんはお母さんからもらった栄養を蓄えて生まれてくる♪

赤ちゃんは産まれてくるとき、大人より多い水分を身体に蓄えて（お母さんのお腹の中で蓄えてきた栄養と水分）産まれてきます。産まれると、赤ちゃんは自分でおしっこ・うちをして、だんだんと体重が減ってすっきりしてきます。この時期は赤ちゃんの胃も小さく、またお母さん母乳分泌量も少ないので、飲める母乳の量はうち・おしっこの量より少ないのです。つまり、飲む量より出す量が多いため体重が減るのです。赤ちゃんは産まれた時から生後3日目くらいまで体重が減りますが、これは正常なことなのです。3000g で産まれた赤ちゃんは 2790g 位までは体重が減るのです。



○赤ちゃんの体重が減ったらどうなるの？

病院では毎日赤ちゃんの体重測定をして、体重減少の程度を確認をしています。毎日の体重測定で、出生時体重から 7% を越えた体重減少になったら（例えば、3000g で産まれた赤ちゃんが 2790g より体重が減ったら）血糖測定を始めます。これは赤ちゃんがお腹が空いて元気がなくなっていないかを確認しているのです。また、お母さんの母乳が出るようにマッサージをしたり、母乳がうまく飲めるように授乳の練習をしたり、必要なら搾乳をしたり、飲めた量を測定したりします。そうしてだんだんと母乳の飲める量が増えて、一旦体重が減ってしまっても赤ちゃんはどんどん体重も増えていくのです。



○赤ちゃんは夜、たくさんおっぱいをほしがります！

産まれてすぐの赤ちゃんは、実は、夜に沢山泣いておっぱいを欲しがるのです！それは、なぜでしょうか？母乳を出す為のホルモンは夜の方が沢山出るのです。夜に赤ちゃんが泣いておっぱいを飲むことは、実は母乳をたくさん出すために必要なことだったんです！母乳がたくさん出るまでの3日目くらいまでが、赤ちゃんが頑張っ泣いておっぱいを欲しがって授乳の回数が増えるのです。

出産のお疲れや、慣れない授乳・育児に戸惑うことがあると思います。スタッフが一丸となってお手伝いします。赤ちゃん頑張っ泣いてたくさん飲んでくれるこの3日間を一緒に乗り越えましょう！

